

学習における「公共性」育成のプラン ―ことば―

| | |
|---------------------------------|---|
| 学習分野 目 標 | (1) 人との多様な関わりの中で思いや考えを伝え合い、友だちの考えを受け止めて、生かしながら自分の考えを創っていく力を養う。 (2) 思考力や想像力及び豊かな言語感覚を養う。 (3) 日本語の持つよさやおもしろさを体験し、ことばを大切にできる心情を養う。 |
| 学習分野で 育 てる 「公共性リ テラシー」 | ○ 対話力 ・人の話を聞いて、応じ、返す力 ・人の考えを理解し、自分の考えと比べ、判断する力 ・自分の思いや考えを相手に理解してもらえるように表現する力 ○ 語彙力 ・日本語の響きを心地よく感じる感性 ・日本語の意味あいや使い方の理解 ・いろいろな言語体験を通してことばを身につけ使おうとする態度 |

第3学年及び第4学年

| A 話すこと・聞くこと | |
|--------------|--|
| 目 標 | 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、わかりやすく伝え合う。話の中心をとらえて聞き、筋道を立てて話し合う。他者との違いを意識しながら目的に向けて話し合おうとする。 |
| 聴 取 | 話の中心を考えながら聴く。自分の聴き取りと他者の聴き取りの違いに気づく |
| 応 答 | 相手の質問に答えたり、詳しく知りたいことを尋ねたりする |
| 主 張 | 自分の言いたいことを伝える |
| 発 表 | 組み立てを考えて話す |
| 調 整 | 場をともに作ろうとする |
| 共 感 | 相手や人物の立場や気持ちを考える |
| 関係把握 ・分 析 | ことばの働きを知り、順序や筋道、事柄のつながりを考える |
| 機 転 | 場の雰囲気に合わせてことばかけができる |
| 学習活動例 | ○ おすすめの本を紹介しあう 6時間 3, 4年 ○ 調べてきたことを伝え合う 「伝え合う」ということ 4年 10時間 点字について図書資料で調べ、カードプレゼンをする ○ 身近なことを話し合っって違った見方を知る 「分類」ということ 3年 10時間 |

B 書くこと

| | |
|-------------|--|
| 目 標 | 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く。自分の願いや思いを工夫して表そうとする。 |
| 関係把握 ・分析 | ことばの働きを知り、順序や筋道、事柄のつながりや因果関係を考えられる |
| 再 構 成 | 目的に応じて言い換えたり書き換えたりすることで自分の考えやアイデアを表す |
| 創 作 | 自分で世界を思い描いてことばで表す |
| 学習活動例 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の中で見つけたおもしろいものをわかりやすく説明する ○ 説明書を作ろう ○ お話作りを楽しみ交流する |

C 読むこと

| | |
|-------------|---|
| 目 標 | 目的に応じ、内容の中心をとらえ、段落相互の関係を考えながら読む。他者との読みの違いに気づき、認め合う。読む楽しさを味わい、進んで本を手にとろうとする。 |
| 感 受 | おもしろさや不思議さを感じる |
| 関係把握 ・分析 | ことばの働きを知り、記述の違いに気づく。順序や筋道、事柄のつながりを考える |
| 想 像 | 様子や気持ち、状況を思い浮かべる |
| 共 感 | 相手や人物の立場や気持ちを考える |
| 批 判 | 疑問を素直に表し、友だちとの読みの違いに気づく |
| 学習活動例 | <ul style="list-style-type: none"> ア 説明文を分析的に読む イ 物語を場面の様子や登場人物を想像しながら豊かに読む ウ 物語を読んで、感想を交流する |

学習における「公共性」育成プラン ー市民ー

| | 目 標 | | | | | | |
|---|---|--|------|---------|---|---|--|
| 学習分野目標 | <p>(1) 我が国の国土、歴史、それらに生活する人々の営みの諸問題について、社会的価値判断や意思決定の活動を通して、社会的な見方・考え方を養う。</p> <p>(2) 根拠をもって自分の考えを主張したり、友だちからの賞賛や反論を得たりして、自他に対して責任をもつ民主主義社会を創る市民としての資質を涵養する。</p> | | | | | | |
| 学習分野で育てる「公共性リテラシー」 | <p>社会的な立場の違いによる提案の対立・葛藤・複数性の中に自分自身を位置づけ、その中で社会的価値判断や意思決定の仕方を学ぶ。</p> <p>○ 社会的価値判断力・・・「正しいか、正しくないか」「いいか、悪いか」と価値づけたり、評価したりする判断のこと</p> <p>○ 意思決定力・・・目的実現のために、「何をすべきか」、「どのような解決策がより望ましいか」と合理的な策を選択・決定すること。</p> <p>○ 社会を見る3つの目(「社会的価値判断力」を育成する中で育成される見方・考え方である。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ア 社会には、一個人の工夫や努力でできることとできないことがある。</p> <p>イ 個人の利害と社会全体の利害は、必ずしも一致しない。</p> <p>ウ だから、世の中には、広い視野から社会を調整する仕組みが必要である共に、それらの仕組みに対して関心をもち、自ら働きかけようとする意識をもつことが必要であること。</p> </div> <p>*「市民」では、上記の「公共性リテラシー」をより育てるために、場面設定型の学習を展開している。どこまで、現実の社会問題を扱うか。例えば、諫早湾干拓問題のような、問題の当事者の立場だけで追求しようとする、視野が狭くなる。裁判所や役人のような立場で追求しようとする、視野は広がるが、他人事になる。 ←だからこそ、場面設定と内容を3つのタイプに分けた。</p> | | | | | | |
| 場面設定学習のタイプ | <p>【タイプ①】「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容 【具体例】：「諫早湾の干拓をどう考えるか」、「高速道路無料化をどう考えるか」 「米の生産調整をどうするか」、「海外支援の内容の優先順位を決めよう」 など具体的な時事問題を取り上げる。このことは、子どもを、実際に社会で起きている問題について向かいあわせ、日本の市民としてよりよい社会づくりについて、関心を深めることができる。また、社会的な問題の解決や、政策の選択においては、必ず不利益を被る人々の存在があることに気づかせることができる内容である。これは、以下の②③とは異なり、明らかに、社会事象を内容とする学習分野だけにしか取り扱えないことである。</p> <p>【タイプ②】子どもが社会的な事象を選択しながら「他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容 【具体例】：「消防設備を一つ増やすことができたら、何をどこに増やす？」 「東京都らしいところベスト3を選ぼう」、「戦後史の三大ニュースを決めよう」 これらの内容は、①と同じように、「他者との差異や葛藤を感じる問題」である。しかし、①が時事問題で、実際に社会で生きている様々な立場の人々が利害関係にあることを学ぶのに対して、②の内容では、学級内の子ども同士の関係性において対立が生じ得る内容なのである。それは、特別活動で学級の催しを決めるのに似ている面がある。</p> <p>【タイプ③】子どもがプランや提案を創造しながら「他者との差異を認め広げる」ことが可能な内容 【具体例】：「北海道十勝地方に会社をつくろう」、「沖縄に会社をつくろう」 「未来の自動車のプランをつくろう」、「白神山地を保全する方法を考えよう」 「聖武天皇、鑑真和上、行基、農民が会話をしたら、どんな劇になるでしょう」 など、子どもたちが自分の創造性を発揮して、アイデアを考えて交流しあえる内容である。</p> | | | | | | |
| | 第3学年および第4学年 | | | | | | |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの人々の活動や生活の様子、および地域の社会的な事象に興味・関心を持ち、めあてをもって学習に取り組む。 ・身の回りの人々の活動や生活の様子、および地域の社会的な事象について、事実を元に考え友だちと関わりあって自分なりの方法で表現する。 | | | | | | |
| | 内容と活動 | | | | | | |
| 3年 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">内容と活動</th> <th style="width: 20%;">配慮事項</th> <th style="width: 20%;">Cosとの対比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>1 大学の地図を作ろう</p> <p>【タイプ③】「他者との差異を認め広げる」ことが可能な内容 【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・自分たちの学校を紹介するための地図の意義 ・低地・台地・坂に注目した観察 ・地形を背景にした土地利用の発見 ・社会事象を地形の観点から関連的にとらえる第一歩 <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学キャンパスの初歩的な地形図を、4段階の段彩に色分けする。 ○大学のいろいろな施設が、どの高さにあるのか、観察して整理する。 </td> <td> <p>自分たちの生活の舞台である地域の地形を体感を通して把握し、それを地図に表現する経験を重ねる。(価値観というより事実認識)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・自分たちの学校を紹介するための地図の意義 </td> <td> <p>地形区分や、地形と土地利用との関連について、かなり詳細に扱う。</p> </td> </tr> </tbody> </table> | 内容と活動 | 配慮事項 | Cosとの対比 | <p>1 大学の地図を作ろう</p> <p>【タイプ③】「他者との差異を認め広げる」ことが可能な内容 【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・自分たちの学校を紹介するための地図の意義 ・低地・台地・坂に注目した観察 ・地形を背景にした土地利用の発見 ・社会事象を地形の観点から関連的にとらえる第一歩 <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学キャンパスの初歩的な地形図を、4段階の段彩に色分けする。 ○大学のいろいろな施設が、どの高さにあるのか、観察して整理する。 | <p>自分たちの生活の舞台である地域の地形を体感を通して把握し、それを地図に表現する経験を重ねる。(価値観というより事実認識)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・自分たちの学校を紹介するための地図の意義 | <p>地形区分や、地形と土地利用との関連について、かなり詳細に扱う。</p> |
| 内容と活動 | 配慮事項 | Cosとの対比 | | | | | |
| <p>1 大学の地図を作ろう</p> <p>【タイプ③】「他者との差異を認め広げる」ことが可能な内容 【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・自分たちの学校を紹介するための地図の意義 ・低地・台地・坂に注目した観察 ・地形を背景にした土地利用の発見 ・社会事象を地形の観点から関連的にとらえる第一歩 <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学キャンパスの初歩的な地形図を、4段階の段彩に色分けする。 ○大学のいろいろな施設が、どの高さにあるのか、観察して整理する。 | <p>自分たちの生活の舞台である地域の地形を体感を通して把握し、それを地図に表現する経験を重ねる。(価値観というより事実認識)</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・自分たちの学校を紹介するための地図の意義 | <p>地形区分や、地形と土地利用との関連について、かなり詳細に扱う。</p> | | | | | |

| | | |
|---|--|--|
| <p>2 みんなが喜ぶ公園をつくろう 【タイプ①】「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容</p> <p>【内容】 ・住民にとっての公園の意義 ・公園の建設や管理にみられる公のはたらき ・公園の地の利</p> <p>【活動】 みんなが喜ぶ公園には、どんなものがあり、どのように過ごせるようにするのがいいのか、提案する。</p> | <p>実際の観察と、関連把握的な思考を重視するとともに、自分たちも公園を利用する当事者と考えると、学習を自分のものととらえる。</p> | <p>学習指導要領と概ね共通するが、公園に関わる各フアクターを、より関連把握的にとらえるよう重視した扱いになっている。</p> |
| <p>3 店のしごと 【タイプ③】「他者との差異を認め広げる」ことが可能な内容</p> <p>【内容】 ・自分たちが買い物をして、当事者となった場合の発見 ・店の工夫とともに、消費者としての自分たちの立場を意識 ・買い物が家族の食生活を支えていることに気付かせ、家族の一員としての役割を強く意識</p> <p>【活動】 ○夕食の買い物の計画を立て、不明な部分は、家の人からアドバイスを受ける。 ○実際に買い物をして、そこでの発見について話し合う。</p> | <p>家族や、販売者である地域の人々との結びつきもねらう。暮らしに生きる公共性の第一歩</p> | <p>知的理解のみならず、意識の面の公共性を育てようとしている。</p> |
| <p>4 暮らしの移り変わり 【タイプ②】「他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容【内容】 ・昔の道具の観察や体験 ・昔の道具の長所や短所 ・昔の道具で保存すべきもの・廃止すべきもの</p> <p>【活動】 ○たらいと洗濯板、七輪、肥後守のナイフなど、いくつかの昔の道具を使用する体験をしてみる。 ○昔の道具で、不便なことから廃止すべきもの、手作業の大切さや芸術性の尊重から、残すべきものについて話し合う。</p> | <p>昔の道具における長短の判断では、価値判断の相違は必然的に生じる。この相違を討論することを、過去・現在にわたる暮らしの移り変わりの意味を掘り下げる意味で大切にする。</p> | <p>昔の道具を単なる過去の事実として、そこに暮らした人々の考えや思いだけを推測するのではなく、現在の自分たちの問題として扱い、自分たちも当事者であるという立場をとっている。</p> |
| <p>1 山形県鶴岡市の小学生に東京らしいところを3箇所紹介するならどこにするか。 【タイプ②】「他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容 【タイプ③】「他者との差異を認め広げる」ことが可能な内容【内容】 ・東京都における自分たちの区、東京都の地理的位置 ・都全体の地形や主な産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置 ・都内の特色ある地域の人々の生活</p> <p>【活動】 ○東京らしいところとは、どんな場所を指すのか。 ①東京らしい自然は、人工的な自然か、意外にも残っている奥多摩の自然か。【タイプ②】 ②人口が多く、(高層)建物が多く、交通も便利な都市部で紹介したいところはどこか。【タイプ③】</p> | <p>3年生「1 大学の地図をつくろう」と、本単元をつなぐ意味で、「自分の町の自慢をしよう」という単元を設けている。理由は、学校のある地域と住んでいる地域が異なるという附属学校の特長からである。また、自分の住んでいる地域を誇りに感じるという感じが、東京都において自慢する場所を見つけるといった感じ方につながっていくと捉えている。</p> | <p>学習指導要領と比べると、「人々の生活や産業と国内の他地域や外国とのかかわり」を扱いにくい。東京都の特色を考える上では、大都会というイメージと大都会にある自然という異なったイメージを、両面から考えてより豊かな東京のイメージをつくることができる。学習指導要領(3・4年生)ー(5)ーイ「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」については、「自分の町の自慢をしよう」で取り上げる。</p> |
| <p>2 学校内にもう一つ消防設備を増やすならどこにする 【タイプ②】「他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容【内容】 ・火事の防止について、学校内には防火、消防設備が計画的に配置されている。</p> <p>【活動】 ・校内の防火・消防設備の役割や配置を調べ、校内の防火・消防体制の不備な点について考え、更に、学校内にもう一つ消防設備を増やすならどこにするか提案する。</p> | <p>防火と消防なら、どちらの設備をより重視して配置するのか、考えることによって、設備それぞれがもつ働きや意味をより幅広く考えることができる。</p> | <p>学習指導要領では、「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」に重点があるが、本単元では、自分たちが、消防設備の配置を考える点に重点がある。</p> |
| <p>3 東京をごみの山から救うために、どんなことができるだろう 【タイプ①】「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容【内容】 ・ごみがどのように処理されているのか知る。 ・ごみの減量に関する「社会を見る3つの目」について考える。</p> <p>【活動】 東京をごみの山から救うためには、わたしたちにできることや、社会全体でやっつけていけることなどを考え、提案する。</p> | <p>「わたしたち一人一人にできることは何か」を考えることにとどまるのではなく、社会全体で取り組んでいく大切さも考えさせたい。その際世の中で実際に取り組まれていることを元に考えさせるようにさせたい。</p> | <p>学習指導要領では、「廃棄物の処理・計画的・協力的に進められている」に重点があるが、本単元では、自分たちや社会にできることにより目を向け、具体的な手だてを考えることに重点がある。</p> |

4年

学習における「公共性」育成プラン ー算数ー

| | |
|---------------------------------|--|
| 学習分野 目 標 | <p>(1) 体験や活動の中から数理的な課題を見つけ、それを算数・数学のことばを通して考え、解決することで知識・技能を身に付ける。</p> <p>(2) 解決に対しての見通しをたて、自分なりの考えをもち、その根拠や意図を表現できるようにする。</p> <p>(3) 友だちの思いや解決方法を想像し、自分の考え方と友だちの考え方を比較検討して数学的な見方・考え方を広げ、深める。</p> <p>(4) 解決の過程や解決結果がどのような意味を持つのかを評価し、学習したことを自らの生活に進んで生かしたり、新たな課題を見つけようとしたりする。</p> |
| 学習分野で 育 てる 「公共性リ テラシー」 | <p>ア 既習事項や日常生活、友だちの疑問等から自分なりの課題を持ち解決に取り組む姿勢</p> <p>イ 自分の考えを図や式・ことばを使って友だちに分かりやすく伝える力</p> <p>ウ 友だちの考えを図や式・ことばから理解し、自分の考えと似ている点や違っている点を明確にする力</p> <p>エ 様々な解決の中から、話し合いを通して、課題場面に適した方法を判断する力</p> <p>オ 学習したことを整理し合い、疑問やさらに知りたいことを出し合いながら新たな課題を見つける力</p> |

第3学年及び第4学年

| | |
|---------------------------------|--|
| 学習分野 目 標 | <p>(1) 日常の体験や学習活動の中から数理的な課題を見つけ、それを算数のことば（式や図）を通して考え、解決することで知識・技能を身に付ける。</p> <p>(2) 解決に対しての見通しをたて、自分なりの考えをもち、その根拠や意図をことばや図や式に書いて表現できるようにする。</p> <p>(3) 友だちの思いや解決方法を想像し、自分の考え方と友だちの考え方の違いや類似点を理解し、数学的な見方・考え方を広げる。</p> <p>(4) 解決の過程や解決結果がどのような意味を持つのかを考え、学習したことを自らの生活に進んで生かしたり、新たな課題を見つけようとしたりする。</p> |
| 学習分野で 育 てる 「公共性リ テラシー」 | <p>ア 身の回りの事象から数量を取り出し、目的に応じて課題とする。 友だちの疑問に関心をもつ。 既習事項をもとに類推的思考や帰納的思考を用いて、論理的に解決を行う。</p> <p>イ 自分なりに解決し、その方法を読んで分かるように書く。 四則演算の式、グラフ、線分図、数直線を表現方法や思考の手立てとして使う。</p> <p>ウ 式やグラフを読み取り、判断する。 自分の考えと友だちの考えを比較し、似ている点や違っている点を明確にする。</p> <p>エ 解決方法や結果について、条件と関連付けて判断する。</p> <p>オ 解決を見直し、さらに解決が必要な場合や新たな課題が見いだせないか考える。</p> |

| 数 ・ 式 と 計 算 | |
|--|---|
| <p>・ 数を目的に応じて使い、<u>その結果にもとづいて判断する。</u> ・ 数の構造を理解し、広げる。</p> | |
| <p style="text-align: center;">数を使って考える</p> <p>数範囲を広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 万を越える数の構成 ・ およその数 ・ 小数, 分数 <p>記数法に基づいた計算方法の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加減計算の位取り・九九の範囲を超えるかけ算とわり算 | <p style="text-align: center;">式と演算決定</p> <p>式の意味を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の事象の式表現・加法, 減法, 乗法の意味理解 <p>問題場面を読みとり, 適切な演算を決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられた問題からの演算決定 |
| 量 と 測 定 | |
| <p>量を数値化することによって、<u>事象の意味を明確にする。</u></p> | |
| <p>測定と単位の意味を考える</p> | |
| <p>測定の原理をさまざまな量（長さ・かさ・重さ・時間・広さ, 角の大きさなど）において理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直接比較, 間接比較, 任意単位, 普遍単位の意味理解 <p>測定器具を作り, 測定に利用する</p> <p>さまざまな量の測定を通して量感を育てる</p> | |
| 図 形 | |
| <p>図形を構成要素で見ることを通して、<u>他者と共通の基盤で分類ができるようにする。</u></p> | |
| <p>図形の部分に目を向ける</p> | |
| <p>平面図形を構成要素で見ると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 辺の長さ, 角の大きさ, 辺の位置関係 ・ 円と球 <p>定規や三角定規, コンパスを用いて色々な形を作図する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二等辺三角形, 直角三角形, 正方形, 長方形 <p>操作活動を通して立体図形の見方を培う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 直方体, 立方体 | |
| 関 数 | |
| <p>2 量の因果関係を把握することにより、<u>事象の関係を明確にする。</u></p> | |
| <p>2 量の関係のきまりを見つける</p> | |
| <p>現象から 2 量を取り出して, その関係を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係がある 2 量, 関係があるか特定できない 2 量 <p>式を操作して関係を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 逆算関係, 可換性, 分配法則, 結合法則 ・ かけ算, わり算のきまり | |
| 統 計 ・ 確 率 | |
| <p>目的に応じて、<u>事象の様相を表現する。</u></p> | |
| <p>量を 2 次元で表す</p> | |
| <p>2 次元の意味を理解する</p> <p>目的に応じてグラフを選び, 項目・目盛りを考え表現する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 棒グラフ, 折れ線グラフ <p>目的を持ってデータを収集し, それをもとに判断した事柄を友だちに分かりやすく伝える。</p> | |

学習における「公共性」育成プラン —自然—

| | |
|---------------------------------|---|
| 学習分野 目 標 | (1) より良い未来の為に主体的に考え、科学的根拠を持って判断行動ができる。 (2) 探究の技能を磨き、自然の普遍性と巧みさを感じとる。 (3) 自然の事物現象を謙虚に受け止め、事実から学ぼうとする。 |
| 学習分野で 育 てる 「公共性リ テラシー」 | ○ 自分の意見や予想をしっかりともち、検証方法や実験・観察方法を話し合い、友だちの考えを聞こうとする態度。 ○ 友人と協力して実験や観察に取り組む協調性と、最後までやり遂げる根気強さ。 ○ 実験や観察を繰り返し、その結果を共有し、そこから法則や規則性を推論する柔軟な思考力。 |

第3学年及び第4学年

| A 物資・エネルギー | |
|----------------------|---|
| 目 標 | ○ 主に実験の前後に自分の考えを持ち、発表し、友だちの考えを聞く。 ○ 物質の性質や働きについての見方や考え方を養う。 ○ 実験結果（自分で確かめた事実・結果）から考えようとする。 |
| ＜3年＞ 物と重さ | 粘土などを使い、物の重さや体積を調べ、物の性質についての考えをもつことができるようにする。 |
| 風やゴムの 働 き | 風やゴムで物が動く様子を調べ、風やゴムの働きについての考えを持つことができるようにする。 |
| 光の性質 | 鏡などを使い、光の進み方や物に光が当たったときの明るさや暖かさを調べ、光の性質についての考えをもつことができるようにする。 |
| 磁石の性質 | 磁石に付く物や磁石の働きを調べ、磁石の性質についての考えをもつことができるようにする。 |
| 電 気 の 通 り 道 | 乾電池に豆電球などをつなぎ、電気を通すつなぎ方や電気を通す物を調べ、電気の回路についての考えをもつことができるようにする。 |
| ＜4年＞ 空気と水の 性 質 | 閉じこめた空気及び水に力を加え、その体積や押し返す力の変化を調べ、空気及び水の性質についての考えをもつことができるようにする。 |
| 金属・水・ 空気と温度 | 金属、水及び空気を温めたり冷やしたりして、それらの変化の様子を調べ、金属、水及び空気の性質についての考えをもつ事ができるようにする。 |
| 電気の働き | 乾電池や光電池に豆電球やモーターなどをつなぎ、乾電池や光電池の働きを調べ、電気の働きについての考えをもつことができるようにする。 |
| 学習活動例 | ア 一人ひとりが鏡を持って、廊下や階段に並び、屋上の太陽光を教室まで導く活動（3年「光の性質」） イ 巨大なポリ袋に空気をつめて、グループで押ししたり乗ったりする活動（4年「空気と水の性質」） ウ みんなで1メートルの導線をどんどんつなげて、どこまでつなげても、豆電球がつくか調べる活動（3年「電気の通り道」） |

B 生命・地球

| | |
|---------------------------|--|
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主に観察の前後に、自分の考えを持ち、発表し、友だちの考えを聞く。 ○ 生き物や環境についての見方や考え方を養う。 ○ 自分たちの仲間である生き物を愛護する態度を養う。 |
| < 3 年 > 昆虫と植物 | 身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成長の過程やからだのつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。 |
| お茶の水の 自 然 ① | 大学キャンパス内の自然の様子を調べ、生き物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。 |
| 太陽と地面 の 様 子 | 日陰のーの変化や、日なたと日陰の地面の様子を調べ、太陽と地面の様子との関係についての考えをもつことができるようにする。 |
| < 4 年 > 人の体のつ くりと運動 | 人や他の動物の体の動きを観察したり資料を活用したりして、骨や筋肉の動きを調べ、人の体のつくりと運動とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。 |
| お茶の水の 自 然 ② | 大学キャンパス内の自然の様子を調べたり、身近な動物や植物を育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長に気付き、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。 |
| 天気の様子 | 1日の気温の変化や水が蒸発する様子などを観察し、天気や温度の変化、水と水蒸気との関係を調べ、天気の様子や自然界の水の変化についての考えをもつことができるようにする。 |
| 月 と 星 | 月や星を観察し、月の位置と星の明るさや色及び位置を調べ、月や星の特徴や動きについての考えをもつことができる。 |
| 学習活動例 | <p>ア 気温調べをいろいろな場所で行い、グループで分担して測定し、データを共有し、皆で分析する。(4年「天気の様子」)</p> <p>イ 「お茶の水の自然」では、ファミリーで行動させ、何を観察しに行くのか、どの順番で回るのか等を話し合いで決める。(4年「お茶の水の自然」)</p> <p>ウ キャンパス内で、自分が発見したものや、変化に気付いたりした物は、教室の地図に書き込み、情報を共有する。</p> |

学習における「公共性」育成プラン —音楽—

| | |
|---------------------------------|--|
| 学習分野 目 標 | <p>音楽を通して豊かな表現者を育む。</p> <p>(1) からだまるごとで音を感じ、受けとめる感覚を育てる。</p> <p>(2) 作品や演奏者と関わり、自分なりに楽しむ態度を養う。</p> <p>(3) 多様な音楽を仲間と共有する中で、互いの音楽世界を広げ、より豊かな響きを味わう。</p> <p>(4) 他者を受けとめながら、ともに創り出し、新たな音楽表現を生み出そうとする。</p> |
| 学習分野で 育 てる 「公共性リ テラシー」 | <p>○ 必要な道具を用いて、「私」を表現しようとする。</p> <p>○ 「異なる他者」の表現を味わう。</p> <p>○ 他者とともに、音楽表現を生み出そうとする。</p> <p>○ 自らの学習を設計し、自律的に活動する。</p> |

第3学年及び第4学年

| | |
|--|---|
| 目 標 | <p>【第3学年及び第4学年】 仲間と関わりあいながら、ともに楽しみ、響きあう。</p> <p>【第3学年】</p> <p>(1) 仲間とともに、幅広い音楽を経験する。</p> <p>(2) 仲間とからだを委ねあいながら、好きな音楽にひたる心地よさを感じる。</p> <p>(3) 音楽を聴いて、自分の思いに気づく。</p> <p>【第4学年】</p> <p>(1) 自分なりの思いを、仲間に表現しようとする。</p> <p>(2) 自分とは異なる仲間の表現も受けとめる。</p> <p>(3) 自ら音楽活動を組織し、運営していこうとする。</p> |
| <p>第3学年、第4学年では、次のような学習活動を行う（【 】は、平成21年度の例）。 下線部分は、「公共性リテラシー」に関連があることを示す。</p> | |
| 第3学年の 学 習 活 動 | <p>ア 「リクエストによる歌唱」 自分の歌いたい曲を選ぶ。 選ばれた曲を受けとめる。みんなと<u>いっしょに</u>歌う。</p> <hr/> <p>・自分の好きなものを選び、仲間に表明する。 ・自分の選んだ曲を仲間とともに歌う心地よさ（受け入れられた喜び）を感じる。 ・たくさんの曲の中で、自分の快、不快を感じる。 ・自分の好きなものや友だちの好きなものに、<u>いっしょに</u>ひたる。</p> <p>イ ソプラノリコーダーの導入</p> <hr/> <p>・ソラシドレの5音の簡単な指使いで、演奏を楽しむ。【「ジングルベル」「喜びの歌」】 ・ソプラノリコーダーの響きを感じる。 ・自分の息づかいを意識する。</p> <p>ウ 合唱，合奏</p> <hr/> <p>・息を合わせて、気持ちよく歌う。【「星の色」「そろたそろた」】 ・ストーリーに合わせて、自分で動きを考えて踊る。【「たいやき」】 ・リコーダーの簡単なパートと歌を組み合わせて、演奏する。 ・みんなで作品をつくりあげて楽しむ。</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>エ 和楽器の演奏 和楽器を用いて演奏を楽しむ。【「江戸囃子」「八丈太鼓」】</p> <p>・楽器の響きを、<u>ともにからだで感じあう。</u> ・唱歌を唱えあうことを含め、声や楽器とともにあわせる喜びを感じあう。</p> |
| 第4学年の 学習活動 | <p>ア 「ミュージックプランに基づく学習」 「曲・作品の自由」「方法・形態の自由」「演奏者の自由」「時間（進度）の自由」に基づいて、自分で計画を立て、活動に取り組む。自分のやりたい曲や好きな曲にひたる一方で、演奏する場を設け、聴き合い、友だちの演奏を評価し、自分とは違う音楽表現があることに気づく。</p> <p>・多様な音楽に触れ、<u>自分のお気に入りを見つける。</u> → 自己選択 ・自分で、<u>やりたいことを見つけて取り組む。</u> → 自己責任 ・自分なりに感じて作品を創っていく。 ・友だちとともに、<u>多様な表現を合わせることを楽しむ。</u> ・葛藤したり納得したりしながら、<u>創り出していく。</u> → 提案 ・友だちの演奏を聴いて、<u>自分なりに感じる。</u> → 共感、称賛、批判 ・自分が感じたことを、<u>言葉にして伝える。</u> → 聴きあう、評価する場 ・友だちが表現する、<u>自分とは異なるものを楽しむ。</u> → 「異なる他者」の表現を味わう場 ・友だちが創り出したものに、<u>触発される。</u> ・簡単な五線譜を読んだり、<u>自分の演奏したい楽器を体得したりして、楽しんで表現する。</u></p> |
| | <p>イ 合唱，合奏</p> <p>・互いの声を聴きあって、気持ち良く歌う。【「あしたは晴れる」「うたのうた」】 ・ソプラノリコーダーの響きを聴いて、合わせて演奏する。【「パフ」「いつも何度でも」】 ・ソプラノリコーダーに、木琴や打楽器を加えたアンサンブルを楽しむ。 【「シンコペーテッド・クロック」「踊る子猫」】</p> |
| | <p>ウ 音楽づくり 友だちと関わりあいながら、作り出す活動を行う。 【ボディパーカッション「リズムのロンド」「コスミック・ドラム」】</p> <p>・<u>アイディアの違いを楽しむ。</u> ・自分のアイディア、友だちのアイディアを<u>あれこれ試しながらつくる。</u> ・響きをからだまるごとで感じる。 ・ぴったりあう気持ちよさやおもしろさを感じる。 ・自分たちで作りだしていくことを楽しむ。 ・低学年の学習（例えば、簡単なリズム譜やリズム打ち）を思い出し、いかしながらつくる。</p> |
| | <p>エ 和楽器の演奏 打楽器だけではなく、箏を用いた演奏をする。【日本古謡「さくら」】</p> <p>・それぞれの楽器に独特な唱歌<small>しやうが</small>を知り、基本的な奏法を学ぶ。 ・楽器だけではなく、歌とも演奏する。</p> |

学習における「公共性」育成プラン —アート—

1. 目標

- ・「私」らしさに気づく
- ・「私」と異なる表現や見方に気づき、その違いを受け入れる
- ・互いの表現のよさを認め合いながら、新しい表現や見方を創り出していく

2. アートで育みたい「公共性リテラシー」

○ おつきあいスキルを獲得する

- ・造形的な創造活動を通して「からだ」で感じ、「私」らしく表現しようとする意欲
- ・他者の多様な表現を、広い視野をもって受けとめようとする感性
- ・他者との間で「私」らしい感じ方を大切にし、望ましい自己のあり方をつくり出そうとするスキル（判断力・意思決定力・調整力など）

3. 内容〔第3学年及び4年生〕（題材は、一例であり、固定されたものではない）

| | | つくり出す喜び | | みる楽しみ |
|--------------------------------------|-------------|---|---|---|
| | | からだで感じて | 生活を豊かに | |
| お つ き あ い ス キ ル | 無 意 識 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ビビッと感じて」 (みんなでコラージュ) ・「ハートビートドローイング」 ・「卵の世界」 <li style="text-align: center;">「二人で ・「のびるーからだ」 (パターンプロックで象る) ・「動きを版で表す」 <li style="text-align: right;">・「つなげる絵」 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「からだで表す 名前を見合う」 ・「やさしい色に 包まれて」 描く絵 ・「まねしてポーズ」 ・鑑賞タイム |
| | 提 案 型 | <ul style="list-style-type: none"> ・「色・いろ並べて」 ・「味わいアート」 (地域のお節料理の提案) <li style="text-align: right;">・「おもてなし | <ul style="list-style-type: none"> ・「カラースタンプで描く絵」 <li style="text-align: center;">・「キッズ・ゲルニカ」 <li style="text-align: center;">・アート ・「マイ・プロフィール」 <li style="text-align: center;">・「マスキング・ アート」(カフェに招く) ・運動会など行事の飾りづくり | <ul style="list-style-type: none"> (共同製作) レポート (私らしさの追求) プラント ・「お話アート」 (美術作品を演じる) |

学習における「公共性」育成プラン —生活文化—
第5学年及び第6学年

| | |
|---|--|
| 学 習 分 野 目 標 | <p>社会との関わりを考えながら、主体的に生活をつくり、未来を担う自立した生活者を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活における知識・実践力の基礎を身につける。 ・生活の中から課題を見つけ解決を図ろうとする意欲を養う。 |
| 学 習 分 野 で 育 て る 「公共性リテラシー」 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の生活を主体的につくりあげようとする意欲と実践的能力 ○ 友だちと共感的に関わりながら作業をすすめていこうとする力 ○ 生活の背景を読み解く力とその解決策を探ろうとする意欲 |
| 食領域 | |
| <p>《おもな学習内容》 「体と栄養」 「調理実習」 「献立を考えよう」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を見つめて問いを立て、自分でできる解決の方法を考え、計画から片づけまで責任をもって実践する。 ・友だちとともに調理実習を行うことを通して、新しい発見や価値を共有する。 ・体験を通して、自分の食生活を支えている人・もの・社会に気づき、それらとのつながりを実感する。 |
| 衣領域 | |
| <p>《おもな学習内容》 「手縫いの基礎基本」 「布や糸の成り立ち」 「ミシン縫いの基礎基本」 「健康と衣服」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・手縫いやミシン縫いの基礎的技能を獲得し、自分のできることを増やす。 ・友だちとともに製作実習を行うことを通して、互いに助け合ったり教え合ったりしながら、作品を作り上げる楽しさを共有する。 ・体験を通して、自分の衣生活を支えていることがらに気づく。 |
| 家族・住・消費者領域 | |
| <p>《おもな学習内容》 「自分を取りまくもの」 「快適な住まい方」 「ものの買い方を考えよう」</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を見つめて問いを立て、自分でできる解決の方法を考え、実践する。 ・子ども同士が互いに考えを発信し合い、対立・葛藤を乗り越えて建設的な話し合いができる場を経験する。 |

学習における「公共性」育成プラン ーからだー

| | |
|--|---|
| 学習分野 目 標 | 生涯にわたって進んで健康なからだを作り，創造的に運動を楽しもうとする態度・技能及び体力を育む。 |
| 学習分野で 育てる 「公共性リ テラシー」 | <p><感覚・自己認識・体力・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の体と向き合って自分の体や健康について理解を深め運動を通して健康な心身を育もうとする意欲 ○ 多様な運動経験に基づいた様々なコミュニケーションを図る能力 <p><他者認識>（協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間と関わりあうことを通して他者の体への理解を広げ，互いの良さを生かしあう判断力・認識力 |

第3学年及び第4学年

| A 体づくり運動 | |
|--------------|---|
| 目 標 | (1) 体ほぐしや多様な動きを作る運動を行い，体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに，体の基本的な動きができるようにする。 (2) 運動に進んで取り組み，決まりを守って仲よく運動をしたり，運動する場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (3) 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。 |
| 体ほぐしの運動 | 友達と関わりあいながら，手軽な運動や律動的な運動を行う。 |
| 多様な動きを作る運動 | 友達と関わりあいながら，体のバランスや移動，用具の操作，それらを組みあわせる運動を行う。 |
| 学 習 活 動 例 | ア リラックスしながら，ペアでのストレッチングを行う。 イ 友達と両手をつなぎ，寝ころんだり，転がったり，起きたりする。 |
| B 器械運動 | |
| 目 標 | (1) 器械運動の楽しさや喜びに触れ，その技ができるようにする。 (2) 運動に進んで取り組み，きまりを守って仲よく運動をしたり，運動する場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (3) 自己の能力に適した課題をもち，技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。 |
| マット運動 | お互いに教えあい，補助しあいながら，基本的な回転技や倒立技をする。 |
| 鉄棒運動 | お互いに教えあい，補助しあいながら，基本的な上がり技や指示回転技，下り技をする。 |
| 跳び箱運動 | お互いに教えあい，補助しあいながら，基本的な支持跳び越し技をする。 |
| 学 習 活 動 例 | ア 友達と補助しあいながら，倒立や逆上がりをする。 イ 着手の位置を見あい，教えあいながら開脚跳びをする。 |
| C 走・跳の運動 | |
| 目 標 | (1) かけっこ・リレー，マラソン，走り幅跳びなどの運動を楽しく行い，その動きができるようにする。 (2) 運動に進んで取り組み，きまりを守り仲よく運動をしたり，勝敗の結果を受け入れたり，場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (3) その運動をすることの意味や価値を理解するとともに，自分の身体や動きを感じられるようにする。 (4) 自己の能力に適した課題をもち動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫できるようにする。 |
| 短距離走 | スタートやゴールの仕方などを理解し，リズム良く走る。 |
| リレー | テイクオーバーゾーンでの動きやバトンパスの方法を身に付ける。 |
| マラソン | 呼吸の仕方を工夫しながら，一定のペースでリズム良く走る。 |
| 幅 跳 び | 短い助走から踏み切って跳ぶ。 |
| 学 習 活 動 例 | ア 追いかけ走などで，全力で走りながらバトンを渡す感覚をつかむ。 イ コースへの入り方や並び方，バトンパスの方法など安全に配慮したリレーの方法を体験的に学習する。 ウ 駅伝方式によるマラソン練習により，チームのメンバー同士で高め合う。 エ 踏み切りに合わせて助走距離を決め，短い距離での幅跳び・高跳びを行う。 |

| D 浮く・泳ぐ運動 | |
|-----------|--|
| 目 標 | (1) 水の感触に親しみ、水中での運動を楽しく行う。 (2) 運動に進んで取り組み、友達と関わって仲よく運動をする。 (3) 浮く・泳ぐ運動の心得を守って、安全に運動することができるようにする。 (4) 自己の能力に適した課題をもち、水中での動きを身に付けるための活動を工夫できるようにする。 |
| 浮く運動 | 友達と関わりあいながら水中での色々な動きに親しみ、水を感じる。いろいろな浮き方やけ伸びをし、その感覚を楽しむ。 |
| 泳ぐ運動 | 補助具を使つてのキックやストローク、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎをする。 |
| 学 習 例 | ア 浮く・潜る・回転・身を任せる・逆らうなどの動きを通して、水の感触や水中での自分の体を感じる。 イ 2人で関わりながら水慣れや水中移動、リズムにあわせての水中歩行をする。 |
| E ゲーム | |
| 目 標 | (1) ゴール型、ネット型、ベースボール型ゲーム、ニュースポーツなどの運動を楽しく行い、その動きができるようにする。 (2) 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (3) その運動をすることの意味や価値を理解するとともに、自分の身体や動きを感じられるようにする。 (4) 規則を工夫したりメンバーやゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりできるようにする。 |
| 学 習 例 | ア ハンドボール、ラインサッカー、ソフトバレーボール、キックベースなどを基にした易しいゲームをし、チームの作戦やメンバーの連携が必然的に求められるよう工夫する。 イ チームカードや振り返りカードなどを活用するなど、相互評価の方法を工夫してみんなで高めあう。 ウ ミニコーチ制を導入し、ゲーム内容や練習方法などについてチーム内で互いに理解しあい励ましあう。 エ 審判の役割を高め、ルールを守ることの重要性、ルールの必要性について意識する。 |
| F 表現運動 | |
| 目 標 | (1) 様々な動きに触れ、表したい感じを動きで表現したり、リズムの特徴を感じて踊ることを楽しむ。 (2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりする。 (3) 自己の能力や関心に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫し、お互いの表現を認めあう。 |
| 表 現 | 身近な生活などの題材から主な特徴を捉え、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして工夫して踊ること。体の部位を意識して動くこと。 |
| リズムダンス | 軽快なリズムに乗って色々な動きで全身で踊ること。 |
| 学 習 例 | ア 簡単なゲームや他教科との関連から題材を選んで、すぐなりきって動きで表現する。 イ 1時間の中に、踊る・創る・見るを入れ込み楽しく動く。 |
| G 保健 | |
| 目 標 | 自分のからだ向き合い、からだを知り育て守る能力を身につけさせるとともに、仲間と関わりあうことを通して、健康なからだをつくらうとする態度を育てる。 |
| 感 じ る | 自分や周りの人の体や心は個々に違っていることを感じる。 |
| 考 え る | 体や心が成長することや、人の体の仕組みや成り立ちを理解する。日常なりやすい病気の予防法を知る。 |
| あ ら わ す | 自分の意見や考えをワークシートなどにまとめる。 |
| で あ う | 仲間とのであいや活動を楽しむ。 |
| 学 習 例 | ア 喫煙など自分の健康習慣が他者の健康に害を及ぼすことを知る。 イ 模型や写真や絵等の具体物を通して、人の体や心の仕組みや成り立ちを理解する。 ウ グループワークを通して、個々の考え方や理解の違いに気づく。 |